

臨床研究に関するお知らせ

研究課題名：

菌血症の確定診断における血清プロカルシトニン値を指標とする抗菌薬使用基準の検討

西部医療センター総合内科及び院内感染対策チームでは下記の研究を行っています。

(調査期間：2018年5月～2019年4月30日まで)

【目的】

菌血症は重症化すると敗血症となるため早めの確定診断が重要です。しかし、菌血症の確定診断では血液培養が行われますが、培養から判定までに数日から1週間程度かかります。血清PCT値は、全身性炎症反応の指標ですが、細菌感染のみで上昇し、ウイルス感染、自己免疫疾患、癌などでは陽性とならず、発熱からの時間経過で上昇するため細菌感染症の判定及び重症度判定の指標となっています。今回の研究は、迅速に検査結果の得る血清PCT値が、菌血症の確定診断・予後予測・抗菌薬投与期間に関与するかを調査し、血清PCT値別の抗菌薬投与基準の作成を行うことを目的としています。

【研究の対象】

2017年4月1日から2018年3月31日までの期間、西部医療センター総合内科（救急外来）に受診され、敗血症疑いから抗菌薬投与開始前に血清PCT値が記載されている方の診療録

【調査する項目】

- ・患者基本情報：年齢、性別、身長、体重、既往歴・通院歴・入院歴、施設入所の有無、喫煙歴、飲酒歴、合併症（糖尿病、高脂血症、高血圧、癌（病期・治療歴含む）、医療器具の装着の有無
- ・全身状態：心拍数、呼吸数、血圧、意識状態
- ・抗菌薬治療の情報：使用抗菌薬名、抗菌薬投与量、抗菌薬投与期間、体温（初回診断時から抗菌薬投与1週間後までの間に記録した全ての値）、画像検査の有無（CT、MRI）、初回診断時及び抗菌薬投与開始から1週間後の2回の血清生化学検査（WBC、Hb、Plt、GOT、GPT、T.Bil、Amy、LDH、BUN、Cre、eGFR、Na、K、Cl、CRP、BNP）及び細菌培養結果（血液、喀痰、尿、便）、来院から血清PCT値判明までの時間、血清PCT値（初回診断時）、転帰情報、診断変更の有無、診断変更時の診断名、緩解判定日（発熱が消失（体温37℃以下）し、感染に伴う異常な数値が一部正常化した日）、最終的な転帰

【調査の方法】

研究担当医師が【研究の対象】となるあなたの診療録より、【調査する項目】の情報を「症例調査票」に記入します。得られた情報をもとに、血清PCT値が菌血症の確定診断・予後予測・抗菌薬投与期間に関与するかを統計学的に比較します。

なお、この研究で使用する情報に、個人を特定する情報（あなたのお名前、ID、住所等）は含まれませんので、あなたの個人情報が外部に漏れることはありません。

この研究に参加したくない（データを使ってほしくない）場合は医療者にその旨をお伝えください。

2018年5月

名古屋市立西部医療センター

総合内科 菊地基雄